

教えてください、あなたのことを。②9

神奈川県川崎市 奥山玲子 さん

(新あさお生きごみ隊、かわさきかえるプロジェクト会員)

Q 差し支えなければ、年齢、出身地を教えてください。

A 神戸の六甲で生まれ育ちました。69歳です。32才で夫の転勤に伴い川崎に引越してきました。

Q ごみ問題に関心を持つようになったのは…？

A 今現在住んでいるマンション（新ゆりグリーンタウン）に35年前入居した際、ごみ置場に溢れる引越ごみの出し方がどうにも気になったこと、実際にごみ問題で活動するようになったきっかけは、入居後まもなく出会った生活クラブ生協による空きびん回収でした。友人宅が回収ポイントになっていました。



当時、新聞などの資源回収はよく見かけましたが、空きびん回収は初めてでした。川崎市による分別収集もまだでしたので、この空きびん回収をいずれは2,300世帯になるという新ゆりグリーンタウンに広めたいと思い、すぐに生活クラブに加入し、資源再利用委員会に入りました。数年後には「川崎・ごみを考える市民連絡会」（略称ごみ連）に生活クラブの代表として参加し、20余の市民団体と共に活動を始めることになりました。

Q 「ごみ・環境ビジョン21」に入会してくださったきっかけは？

A ちょうどその頃、容器包装リサイクル法制定に向けた動きがあり、生産者責任で容器包装のリサイクルをしているドイツのデュアルシステムについて、ドイツから来た人の講演があるというので、ごみ連の会員と一緒に小金井市の会場に向向しました。

その講演を企画したのが、ごみ・環境ビジョン21の前身であったと記憶しています。その時に入会したと思います。

Q 特筆すべき近況があれば、教えてください。

A 川崎・ごみ連は5年ほど前に解散しましたが、ごみ連から生まれた「農家とつなぐ生ごみリサイクル」の4つの実践グループの1つで活動を続けています。

この活動はなかなか広められないのですが、最近では廃食油回収グループが3年前に始めた菜の花プロジェクトにも関わっています。農家が菜の花を栽培してくれたからこそ始められたこのプロジェクトは、今や川崎市麻生区役所との協働事業となり、市民・農家・大学・役所・社会福祉施設へと輪が広がりつつあります。菜の花の栽培には少しですが生ごみ堆肥も使っています。

Q ごみかんに期待したいこと、あるいは提案したいことをお聞かせください。

A 家庭の生ごみを都市農業に活かしている事例を教えてもらえると嬉しいです。